

Bunkamura

株式会社東急文化村
会 社 案 内



目次

代表メッセージ	2
創業の背景／サステナビリティ憲章	3
創造／発信	4
運営施設	5～6
交流／育成	7
その他	8



Bunkamura地下1階テラスより

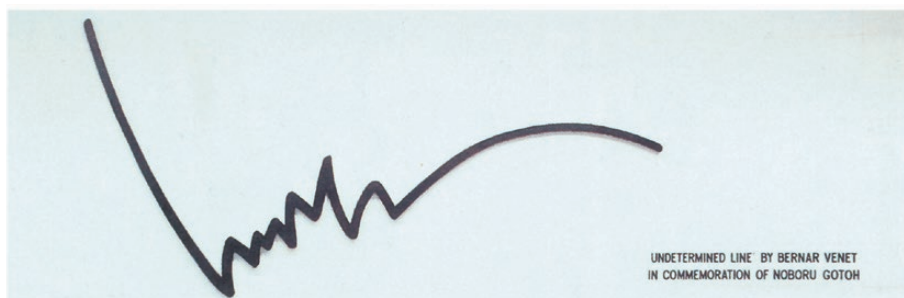
代表メッセージ

1988年、「物から心の豊かさ」が社会全体から求められる中、東急グループによる文化事業の中核的機能を果たすため株式会社東急文化村を設立いたしました。翌年、ひとつの空間で多様なジャンルの文化・芸術を楽しんでいただける日本初の大型複合文化施設「Bunkamura」を東京・渋谷に開館。2000年代には能楽を中心とした日本の伝統芸能のための「セルリアンタワー能楽堂」、ミュージカル専用劇場「東急シアターオーブ」の運営にも加わり、日々文化・芸術の発信を行っております。

当社は創業以来、「創造」「発信」「交流」をコンセプトに活動を続けてまいりましたが、さらに「育成」の要素を追加、アーティストへの支援や次世代の観客へのアプローチを行ってまいります。来るべき成熟した社会に向けて、これからも至高の芸術が洗練された観客と融合していく場として、100年先までをも見据えた探求を日々続けてまいります。

世界情勢が刻一刻と変容している中で、文化・芸術の役割が重要性を増しています。文化・芸術による感動は自らの心を豊かにしてくれると共に、他者への理解や共感につながります。文化・芸術の発信を通して、相互理解と尊重を促進し、多様な価値観が響きあえる社会を創造することを目指します。活動を通じて、社会や地域への発展に寄与することを追求してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社東急文化村
代表取締役社長
嶋田創



ベルナール・ヴェネによる故・五島昇会長の記念碑「柔かな輪郭」(Bunkamura1階)

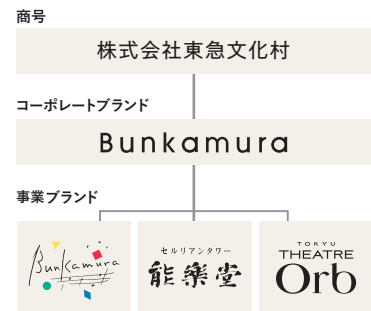
渋谷から国内外の優れた文化・芸術を発信し、街の魅力を高める

東急グループは東京急行電鉄（現・東急）を中核に、百貨店をはじめとする流通事業、不動産事業、ホテル事業、そして文化事業を通じ、東京・渋谷地区の発展に寄与してまいりました。渋谷という街と共に発展してきた東急グループにとって、まさに渋谷はホームグラウンドといえます。

そうした渋谷全体のさらなる活性化や再開発を進めていく中で、東急グループは社会のニーズが“物から心”“量から質”へと変化していくことを見据え、多くの人々が本格的な文化・芸術に親しめる施設の開発を構想。1988年、株式会社東急文化村を立ち上げ、そして1989年9月、日本初の大型複合文化施設となるBunkamuraをオープンいたしました。

Bunkamuraは、クラシックやバレエをはじめとしたさまざまなジャンルの公演を行うコンサートホール、演劇を中心とした劇場、美術館、映画館、さらに物販施設や飲食施設を併せ持つ、東急グループにおける文化活動の中心的存在。また、同じく当社が運営を行う東急シアターオーブやセルリアンタワー能楽堂とも連携を深めることで、国内外の優れた文化・芸術を幅広く発信する拠点としての役割を果たしてまいりました。現在Bunkamuraはオーチャードホールを除き休館中ですが、2027年1月4日(月)より全館休館となります。休館期間中には、経年使用による各施設の改修や設備の更新に加え、「Shibuya Upper West Project」(2029年度竣工予定)においてザ・ミュージアムが拡大移転する新施設との一体化に向けた大規模改修工事を実施する予定です。

休館期間中も文化・芸術の発信拠点としての活動を継続し、渋谷をはじめとする東急線沿線の周辺施設や東急グループ各施設などでさまざまな文化・芸術事業を展開し、街の魅力を高めるよう努めてまいります。



これからも文化を。これからの物語を。

Bunkamura

多様な価値観が響きあう社会を、文化・芸術を通じて創造

あらゆる人々に文化・芸術の学びと体験の機会を

年齢や性別を問わず、文化・芸術に触れることで自分の可能性を発見するきっかけを提供し、次世代の担い手の育成プログラムに取り組んでまいります。また、国籍や言語において多様な背景をもつ人達がアクセスしやすいよう配慮し、文化・芸術による交流を推進いたします。



Bunkamura × 大日向中学校
探究型・芸術体感プログラム

文化・芸術とテクノロジーの共鳴

昨今急速に発展しているテクノロジーや先進技術を活用し、新しい文化・芸術の創造を目指すとともに、より多くの人々が楽しめるようなアクセシビリティの高い文化・芸術体験を提供いたします。さらに、文化・芸術の視点から次世代技術のアイデアを育ててまいります。



Bunkamura × NTT ArtTechnology
「距離をこえて響きあう 未来の音楽会II」

距離を越えた文化・芸術の発信による地域振興

文化・芸術という共通の体験を通じて、さまざまな地域間との距離を越えた交流を促進いたします。また、文化・芸術の発展による地域振興や、地域経済発展を目指したパートナーシップの締結によって、文化・芸術から得られる感動や発見をさまざまな場所に届けるよう努めてまいります。

オリジナル企画・公演の制作や海外招聘公演の開催

国内外の秀作や才能を発掘し、新しい文化・芸術の提供を目指す

株式会社東急文化村は、自社が積極的に公演・企画をオリジナルで制作すること、海外の優れたカンパニーを招聘・紹介することによって、常に新しい文化・芸術の提供を目指しています。

オーチャードホールでは、「パイロイト音楽祭」の世界初引っ越し公演を皮切りに海外の優れた歌劇場やバレエカンパニーを招聘し、日本に紹介してきました。あわせて、東京フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団との定期的なクラシックコンサートや、世界的ピアニストによるリサイタルシリーズ、オリジナル制作のオペラシリーズなど、さまざまなシリーズ公演を開催。定期的な開催により、それぞれのジャンルやテーマを掘り下げていく内容となっています。

シアターコクーンは、同時代のアーティストたちが互いに触発しあえる劇場として、芸術監督制を導入し、演劇、音楽劇を中心にコンテンポラリーダンス、歌舞伎など、多彩な舞台表現を生み出しています。さらに、海外の才能と出会い、新たな視点で挑む演劇シリーズとして『DISCOVER WORLD THEATRE』を継続しています。

ザ・ミュージアムは近代美術の流れに焦点をあてた展覧会を中心に、日本で紹介されることが少なかった作家の個展や海外の著名な美術館の名品展など、テーマ性・先見性・話題性を持った質の高い展覧会を開催。時代に先駆けて、注目すべき女性芸術家や絵本作家、写真家を紹介するなど、ユニークなテーマでも美術作品の楽しみ方を提供しています。独自の作品選定により芸術性の高い作品や作家性にこだわった作品を上映してきたル・シネマでは、監督や俳優をテーマとした特集上映も近年人気を博しているほか、35mmフィルムや4Kでの上映も積極的に行い、旧作にも新たなスポットを当てています。

海外で話題のミュージカルの招聘を行っている東急シアターオーブは、初来日キャストも多く競演する新春恒例の『ニューイヤー・ミュージカル・コンサート』も人気公演として定着。また、日本の伝統文化を発信するセルリアンタワー能楽堂では、次世代を担う若手能楽師が集う『渋谷能』などの新たな取り組みも進めています。

このように独自の視点からオリジナル企画の制作・発信に取り組むことで、当社では国内外の秀作や精鋭アーティストを積極的に発掘・紹介してまいりました。これからもクオリティー維持のためのプログラムチェックなどを日々行いながら、文化・芸術の発展につながる探究を続けてまいります。



『オーチャードホール×假屋崎省吾
ヴェルディ：オペラ《指環》
～Bunkamuraシアター・オペラ・コンチエルト2022～』



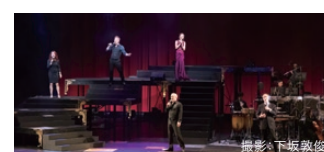
撮影：細野晋司
DISCOVER WORLD THEATRE vol.3
『欲望という名の電車』



『ソール・ライターの原点 ニューヨークの色』



『大いなる自由』（Bunkamura初の自社配給映画）



『ニューイヤー・ミュージカル・コンサート』



『渋谷能』 能「翁」宝生和英

3つの文化施設の運営

各施設の特徴を生かして良質かつ多彩な文化・芸術を発信

音楽・舞踊・演劇・美術・映画を発表できる施設を取り揃え、多くの人々がさまざまな形で文化・芸術に触れることができる場を提供する大型複合文化施設「Bunkamura」。能の五流儀による主催公演を中心に、多彩な公演活動を行っている「セルリアンタワー能楽堂」（2001年5月開館、2011年12月より運営受託）。渋谷駅直結の複合タワー「渋谷ヒカリエ」の中核施設で、親しみやすいミュージカルや音楽劇を上演し観劇文化のすそ野を広げる「東急シアターオーブ」（2012年7月開館）。当社は、東京・渋谷にあるこれら3つの文化施設を運営しています。

いずれの施設も会場の特徴を生かしたオリジナル企画を軸とし、良質な文化・芸術の創造と発信に努めています。また、多様な入口から文化・芸術に触れていただき、興味や理解をいっそう深めていただけるよう、ジャンルや施設をまたいで共通のテーマを紹介するなどの連携企画にも取り組んでいます。

新しい文化や優れた芸術に出会える場所

Bunkamuraはコンサートホール、劇場、美術館、映画館などの施設のほか、カフェやアート関連ショップも備えた日本初の大型複合文化施設。1989年9月のオープン以来、さまざまな文化・芸術に触れ、ゆったりとした時間を過ごせるスポットとして人気を集めました。2023年4月からオーチャードホールのみ営業を継続してまいりましたが、2027年1月4日（月）より全館休館となります。

休館期間を活かして文化・芸術を届ける新たな挑戦へ

休館期間を自由な発想で新たな挑戦をしていく機会をとらえ、当社が大事にしてきた人々の心を動かす文化・芸術の創造と発信を続けていくとともに、さらに活動の場を広げてまいります。優れた文化・芸術を届ける場をBunkamuraだけではなくその周辺まで広げ、感動体験を通じて多くの人々の心を豊かにするチャレンジを続けてまいります。

オフィシャルサプライヤー — 企業が文化を長期的に支援・育成する新しい関係

従来の日本企業と文化の関係が、単発イベントの冠企業としてのスポンサーが主流であったのに対し、Bunkamuraでは文化・芸術を長期的に支援・育成していただく日本初のスポンサーシステムとしてオフィシャルサプライヤー制度を考案。高邁な志を持つ企業の文化活動として注目を集め、今ではすっかり社会に定着しています [多彩な文化活動とそれを支えるオフィシャルサプライヤー制度等の独自の運営システムにて1999年度「メセナ大賞」(社団法人企業メセナ協議会主催)を受賞]。オフィシャルサプライヤーの皆様に応援団として継続的にバックアップいただくことで、優れた文化をより多くの人々に届けることが可能となっています。

Bunkamuraを支えるオフィシャルサプライヤー

OMRON 三井物産 KIRIN 太陽生命 大和証券グループ ニフコ 東急グループ

フランチャイズ・システム — 創造性に満ちた芸術団体とフランチャイズ契約を締結

欧米ではホールや劇場にオーケストラや劇団が所属し、本拠地として活動することが少なくありません。恒常的に使用する団体がいることでホール・劇場が特性や魅力を最大限に発揮でき、芸術家にとっても実力を磨き成長できる場になるなど多くのメリットがあるためです。Bunkamuraでも開館時より、日本で初めてフランチャイズ・システムを導入し、オーチャードホールは東京フィルハーモニー交響楽団(1989年～)とKバレエ トウキョウ(2018年～)、シアターコクーンはオンシアター自由劇場(89～96年)と、創造性に満ちた芸術団体と長期的な協力体制を組んでまいりました。今後もこのシステムを通じて、いっそう豊かな文化・芸術の提供を目指してまいります。

文化・芸術の専門家と共にソフトを提供

Bunkamuraでは施設的设计段階から、文化・芸術の第一線で活躍する方々による企画・運営のためのプロジェクト「プロデューサーズ・オフィス」を設立。同時に舞台関係の専門家を「アドバイザーグループ」に迎え、ソフト優先の考えに基づいた施設づくりに努めてきました。オーチャードホール・シアターコクーン初期プロデューサーである岩城宏之、前田憲男、富田勲、佐藤信、串田和美、金子洋明は、開館以降もホールのコンセプトを自主企画公演として結実させ、当社ならではのレパートリー制を確立。さらにこの思想を基軸とし、オーチャードホールでは指揮者のジェラード・シュワルツ(1994～96年)、音楽評論家の黒田恭一(99～09年)が歴代のプロデューサーに、2012年からはバレエダンサーの熊川哲也が芸術監督に就任。シアターコクーンでは演出家の串田和美(～96年)、蜷川幸雄(99～16年)に次いで、2020年から松尾スズキが芸術監督を務めてきました。2026年4月より松尾スズキは新たにBunkamura顧問演出家に就任し、これまでの役職を一旦休止しております。また、ザ・ミュージアムでは美術評論家の木島俊介が開館前から2023年までプロデューサーを務めました。



東京都渋谷区道玄坂2-24-1



東京フィルハーモニー交響楽団



Kバレエ トウキョウ



熊川哲也

松尾スズキ

Bunkamura オーチャードホール

世界有数の音響を誇るコンバーチブルホール

直方体のシューボックス型を採用した国内最大規模のホールは、高さ約20mの平らな天井と垂直な側壁に音が繰り返し反射することで重厚かつ豊かな音場を生み出し、来場者はもちろんアーティストにも高く評価されています。また、ステージ上の巨大な三重構造の可動式音響シェルターを移動することで、クラシックコンサートをメインに、オペラ、バレエ、ジャズなど異なるジャンルをひとつの空間で提供できるようになっています。

Bunkamura休館中は、日・祝を中心に営業を継続（2027年1月4日(月)より休館）しつつ、他会場でも主催公演を開催しています。



Bunkamura シアターコクーン

さまざまな舞台表現のための劇場

演劇、コンサート、コンテンポラリーダンスをはじめ、さまざまな舞台表現のための劇場。優れた舞台機構をもち、さらに舞台面と客席の一部が可動式になっているため、自由な発想での舞台づくりを実現します。舞台から1階最後列の客席までが24mと舞台と客席の一体感や臨場感が感じられるコンパクトな空間も特徴的です。

Bunkamura休館中は、THEATER MILANO-Zaなど他劇場で主催公演を開催しています。



Bunkamura ザ・ミュージアム

親しみやすいミュージアム

企画・展示を運営の主体とする美術館。美術作品の新たな魅力を引き出すさまざまな空間演出を用いた会場づくり、わかりやすい作品解説など、美術への親しみやすさを重視したユニークなキュレーションを行っています。

Bunkamura休館中は、渋谷ヒカリエ ヒカリエホールなど他会場にて展覧会を開催。再開後は、「Shibuya Upper West Project」で開発を推進する新施設の7階へ拡大移転することが決定しています。

Bunkamura ル・シネマ

渋谷宮下

宮下エリアに新たに誕生した、名作映画と出会う場所

Bunkamuraの休館に伴い、2023年6月から渋谷東映プラザ内に新たな映画館「Bunkamuraル・シネマ 渋谷宮下」(2スクリーン)としてオープン。ル・シネマで長年にわたって培ってきた独自のキュレーションを引き継ぎつつ、渋谷駅前・宮下エリアならではの刺激的なエネルギーを吸収し、世界各国の芸術性の高い作品や作家性にこだわった作品を上映しています。各階ロビーには、スタンドカフェ「ドゥ マゴ パリ プチカフェ」やブックストアも併設し、特別な映画体験を演出いたします。



東京都渋谷区渋谷1-24-12
渋谷東映プラザ7階・9階

Bunkamura Gallery 8/

暮らしに寄り添う良質なアートとの出会いを提案

暮らしに寄り添うアートをコンセプトとするBunkamura Galleryが、休館中は渋谷ヒカリエ内「クリエイティブスペース 8/」に移って「Bunkamura Gallery 8/ (はち)」として活動を継続。大きなガラス面を持つ開放的な空間でさまざまなジャンルの企画展を開催し、アートとの新たな出会いや接点をつくるとともに、持続的なコミュニケーションの場であることを目指してまいります。



東京都渋谷区渋谷2-21-1
渋谷ヒカリエ8階

セルリアンタワー 能楽堂



東京都渋谷区桜丘町26-1
セルリアンタワー地下2階

セルリアンタワーの地下2階にある能楽堂。伝統芸能の担い手たちが垣根を越えて集い、ビギナー向けの公演や従来の慣習にとられない異色のコラボレーションも披露。多彩な公演を通じて能楽の魅力を発信しています。

TOKYU THEATRE Orb



東京都渋谷区渋谷2-21-1
渋谷ヒカリエ11階

渋谷駅直結の渋谷ヒカリエ11～16階に位置するミュージカル劇場。本場ブロードウェイからの来日公演や世界各地で人気を博した作品の日本語版公演など、誰もが親しみやすい国内外の作品をラインナップしています。

人と文化が出会う機会を創り出す

複合文化施設ならではの連動企画やイベントで文化・芸術を楽しむ

Bunkamuraでは多彩な公演やイベントを開催することで、人と文化が交流し、大きな感動を体感できる機会を提供しています。さらに音楽・演劇・美術・映画などの芸術はもちろん、カフェ・ショップまで館内を回遊するように楽しめる複合文化施設ならではの取り組みとして、共通のテーマで各施設との連動企画や、全館規模の複合的なイベントを開館当初から数多く実施しています。

例えば、ザ・ミュージアムの展覧会でフィーチャーしたアーティストに関連した映画をル・シネマで上映し、レストランやカフェでコラボレーションメニューを、書店では画集を取り揃えるなど、芸術家としての偉業を展覧会で、その生涯や人間的な素顔を映画や舞台上でそれぞれ感じ取ることで、アーティストへの理解をよりいっそう深められる機会を創出しています。「日本におけるイギリス年」、「日本におけるフランス年」などにおいては、その国にまつわる公演やイベントを全館で開催し、異文化への理解と興味を深める文化交流を図りました。

また、開放的なテラス空間でフランス気分を味わえる『Bunkamura ドゥ マゴ パリ祭』や観覧無料のミニライブ、さらに気鋭のアーティストたちが参加する講座・対談・ワークショップなど、Bunkamuraならではのイベントも定期的で開催。季節に合わせて周辺施設も共に巡って楽しめる企画を実施するなど、通常の公演や展覧会以外にも、誰もが気軽に参加しやすい形で文化・芸術と出会い、興味や知識を深められる場を設けています。



ザ・ミュージアム『マリー・クワント展』(左)
ル・シネマ『マリー・クワント』(右)



『Bunkamura ドゥ マゴ パリ祭』



『宮本亞門×ソニン スペシャルトーク
「私が見た夢の街－ブロードウェイでの挑戦」』

次世代に文化をつないでいくための自由で新しい挑戦

若い才能の成長を支え、人と文化をつなぐ学びや体験の場を提供

1989年の開館以来、当社は「創造」「発信」「交流」に焦点をあてて活動してまいりました。現在、Bunkamuraはオーチャードホールを除いて休館（2027年1月4日(月)より全館休館）していますが、その間も歩みを止めることはありません。これまで大事にしてきた人々の心を動かす文化・芸術の創造と発信を続けていくと共に、次世代に文化をつないでいくための取り組みにチャレンジしてまいります。

その一環として始動したのが、若い才能への支援と活躍の機会提供を目的とする「Discover Future Stars」。オフィシャルサプライヤーの支援のもと、次世代を担う若き演奏家をセレクトして幅広い層の方々に紹介する『未来の巨匠コンサート』を開催。また、学長の松尾スズキをはじめ第一線で活躍する講師陣を迎え、演劇界の未来を担う若者たちのための『コクーン アクターズ スタジオ』を開講。さらに、国際障害者交流センタービッグ・アイの連携と協力のもと「BiG-i × Bunkamura アートプロジェクト」を始動し、アートを通じて人々の交流を促していきます。これらの取り組みを通じて若い才能を見出し、その成長を見守る「育成」にいっそう力を入れてまいります。

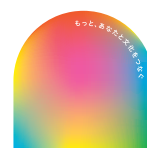
また、文化・芸術のすそ野を広げるため、「Bunkamuraオープンヴィレッジ」と銘打って、さまざまな地域や場所で新たな文化情報発信とアウトリーチ活動を展開。開館以来発信し続けてきた多岐にわたる文化・芸術ジャンルをテーマにしたトークイベントの開催や、教育現場と連携して探究型・芸術体感プログラムを実施するなど、あらゆる人々がもっと文化・芸術にアクセスできる“開かれた「学び」と「体験」の場”を提供いたします。



Discover Future Stars



『Bunkamura オフィシャルサプライヤースペシャル
未来の巨匠コンサート2023 Discover Future Stars Vol.1』



open
village
Bunkamura

Bunkamura ドゥマゴ文学賞

既成の概念にとらわれず“ひとりの選考委員”が新しい才能を発掘

歴史あるパリの文学賞「ドゥマゴ賞」がもつ先進性と独創性を受け継ぎ、既成の概念にとらわれることなく、新しい才能の発掘に寄与することを目指して1990年に創設。選考委員がひとりかつ毎年交代するという独自のシステムで選考しています。前年7月1日から当年7月31日までの13ヶ月間に出版された単行本または雑誌等に発表された日本語の文学作品を対象にし、特定のジャンルにかたよることなく多様性に満ちた作品が歴代受賞作に名を連ねています。



「第33回Bunkamuraドゥマゴ文学賞」授賞式

MY Bunkamura

買いたいチケットや欲しい情報をオンラインで提供

お客様がさまざまなジャンルの文化・芸術に触れて楽しむためのサポートとして、チケットと情報のオンラインサービス「MY Bunkamura」を提供しています。登録すると各ジャンルのチケットを24時間いつでも購入できるほか、チケット発売などの最新情報をメールマガジンでタイムリーに届けています。2023年には公式アプリもリリース。登録者数は約110万人(2026年1月時点)。



Bunkamura
-online ticket-

Bunkamura made 企業コラボレーション

企業・団体のターゲットにリーチするオリジナルイベントを提供

さまざまな文化・芸術の創造・発信を通じて培ってきたノウハウ、アーティストとのコネクションなどをベースに、オリジナルイベントを企画・制作しています。オーチャードホールでのスペシャルコンサートのほか、セルリアンタワー能楽堂での公演や東急プラザ銀座でのライブ、展覧会の特別鑑賞会や映画の貸切鑑賞会など、内容や開催地の希望に合わせて多様なイベントを行ってまいりました。これからは幅広いニーズに対応したプレミアムなイベントをご用意いたします。



TOKYU ROYAL CLUB
『市川染五郎 歌舞伎舞踊公演』
特別貸切鑑賞会

指定管理・受託運営

渋谷で培った運営管理ノウハウを外部の文化施設で広く活用

これまで独自に培ってきた施設の運営管理ノウハウを広く活用し、外部の文化施設の運営に携わっています。

民間による効率的な運用・サービス向上を目指すセシオン杉並(東京・杉並区)から施設の指定管理業務を2023年4月より受託(東急コミュニティー、協和産業との共同事業体)し、“本物のアーティストと出会える原体験を提供”をテーマにした自主公演『セシオン杉並 Meet The Artists』シリーズを開催しています。また、2023年4月に東京・新宿に開業した東急歌舞伎町タワーの6階で株式会社TSTエンタテインメントが運営するTHEATER MILANO-Za(シアターミラノ座)の舞台技術管理・劇場案内業務などを受託しています。

これからはさまざまな施設とタッグを組み、より上質なサービスや品質を通じて文化・芸術の発展に寄与してまいります。



セシオン杉並

Bunkamura

株式会社東急文化村

〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1 TEL.03-3477-9111(大代表)

Bunkamura <https://www.bunkamura.co.jp/>

東急シアターオーブ <https://theatre-orb.com/>

セルリアンタワー能楽堂 <https://www.ceruleantower-noh.com/>